

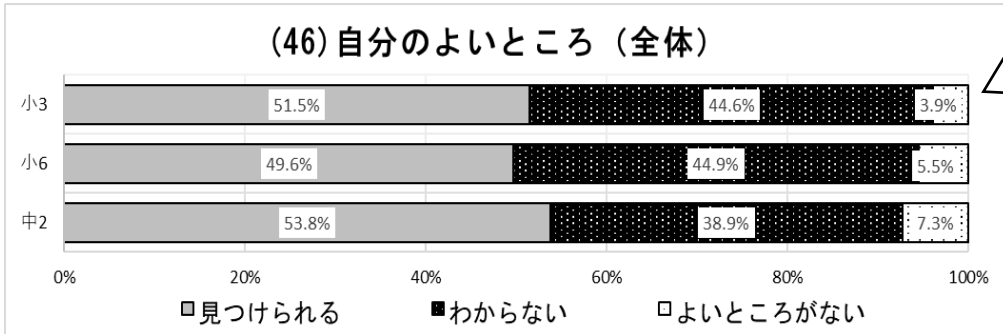
かまくらっ子の意識と調査 第11集 ダイジェスト版

(平成30年度調査結果より)

～子どもの自己肯定感を高めるために～

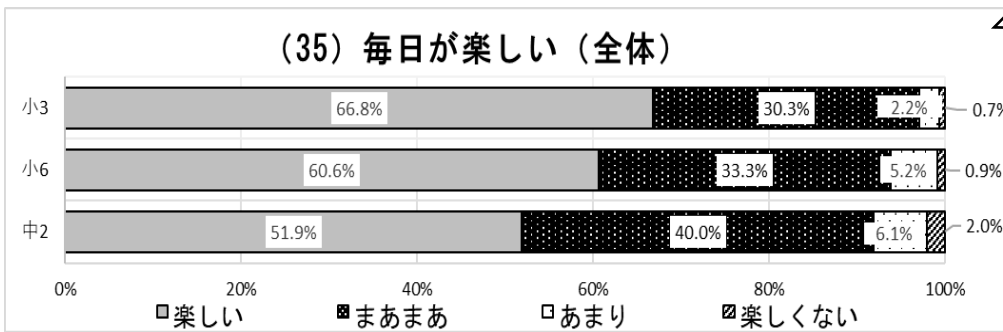
子どもたちの自己肯定感（自分の価値や存在意義を良いと感じる）を高めることは、鎌倉市でも課題となっています。自己肯定感の向上には、学校・家庭・地域の総合的な関わりが大切になります。

◇ 自分のよいところを見つけられますか



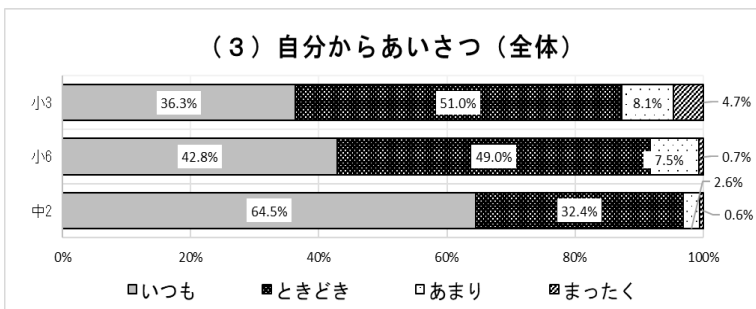
「よいところが見つけれられる」「よいところがない」のどちらも中学2年生が高い。「わからない」と答える割合がどの学年も4割近くある。

◇ 毎日が楽しいですか



どの学年も「楽しい」「まあまあ楽しい」を合わせると、9割近い。

◇ 自分からあいさつをしますか



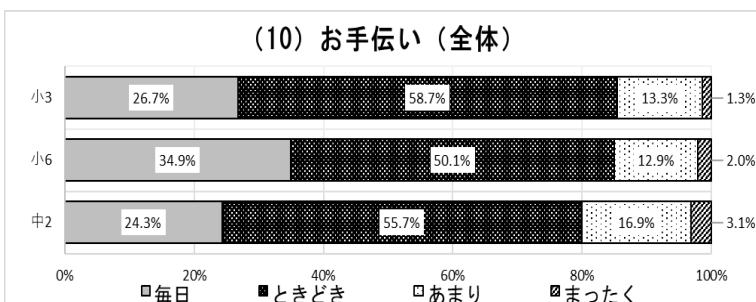
自己肯定感と関連する「あいさつ」「お手伝い」

自己肯定感と「あいさつ」「手伝い」の項目に関連があることが、クロス集計の調べからわかりました。自己肯定感とは、周りの人に対する行動に影響していると考えられます。

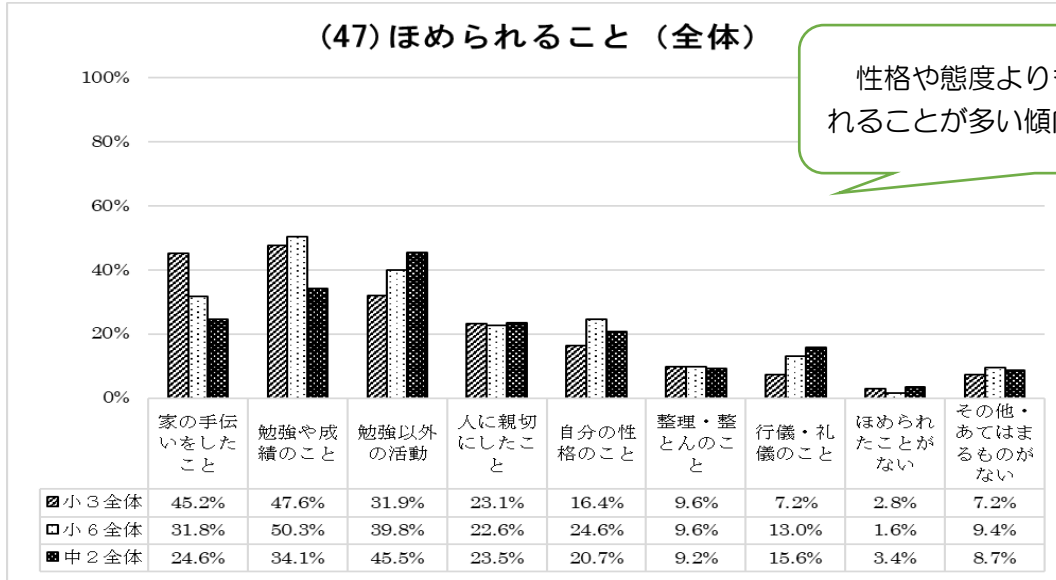
「あいさつ」に対して消極的な子どもは、自分のよいところが「見つけれられない」「わからない」と答える割合が高く、自己肯定感が低い傾向があります。「あいさつ」の背景にある子どもの心の状態を捉え、適切に支援をすることが大切です。

また、手伝いをすることで、ほめられたり感謝されたりする機会が増えることや、自分の行為が役に立っている満足感を得ることは、自己肯定感の向上に影響していると考えられます。

◇ お手伝いをしますか



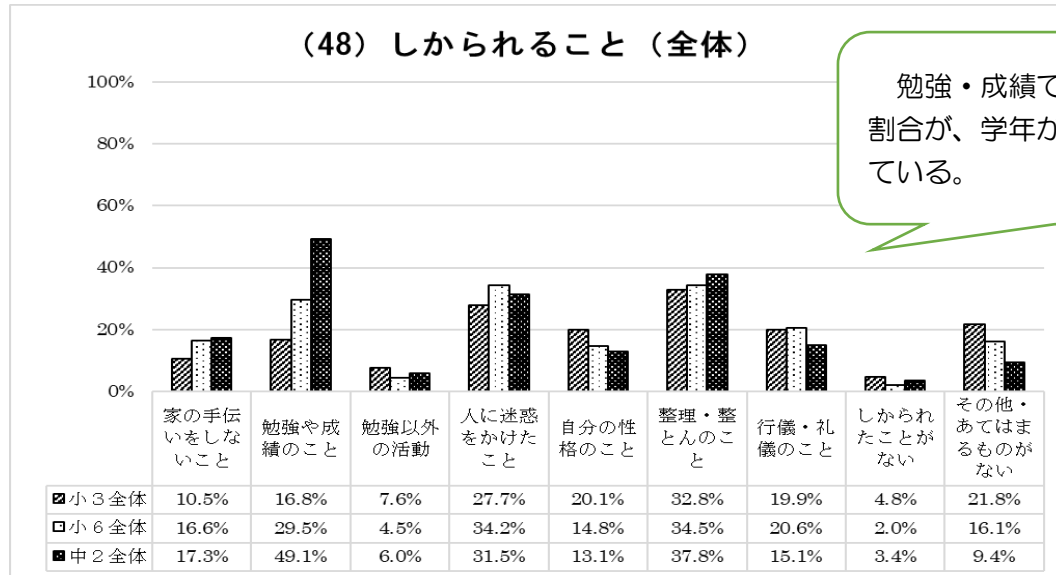
◇ 家の人からどんなことでほめられることが多いですか



性格や態度よりも成果・成績をほめられることが多い傾向がある。

ありのままの自分の存在や、結果だけでなくプロセスを認められることが、子どもの自己肯定感を育みます。

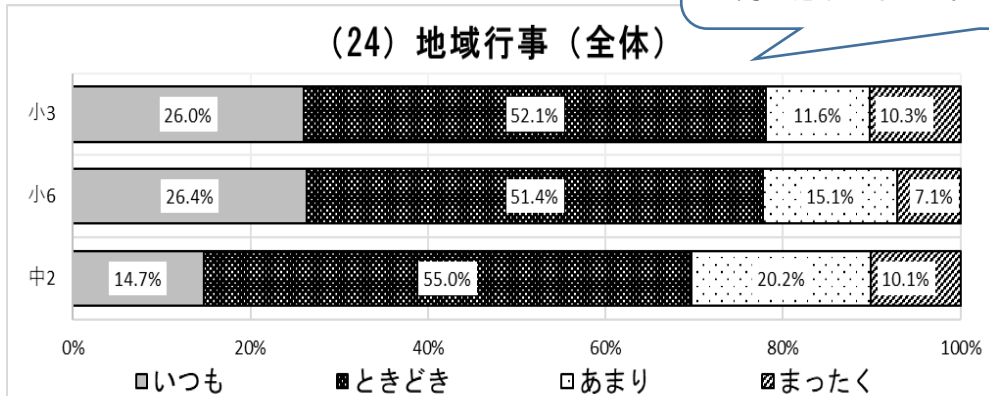
◇ 家の人からどんなことでしかられることが多いですか



勉強・成績でしかられると答えた割合が、学年が上がるにつれて増えている。

しかられる内容は、子どもの意識の中で強調され、自分の評価や行動にむすびついています。

◇ 地域のお祭りや行事に参加しますか



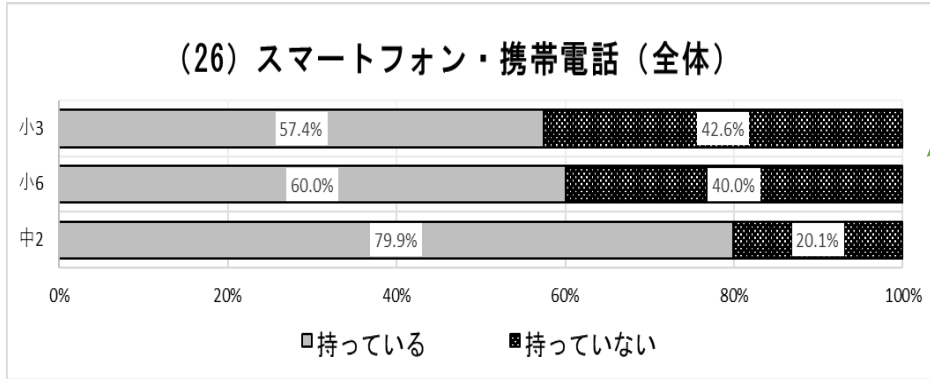
質問文に「お祭り」という言葉が入っていたことで、学力・学習状況調査より、「いつも」「ときどき」の割合が高い結果になった。

お祭り以外の「地域の行事」についても、鎌倉の子どもたちが身近に感じられるようにしていことが大切だと考えています。

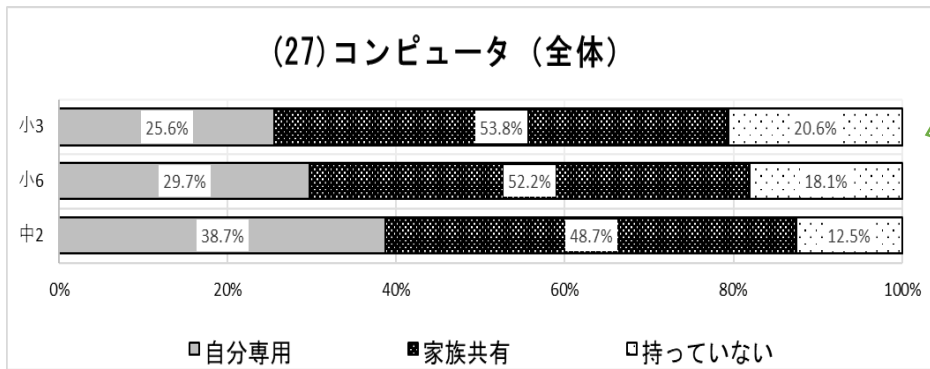
～情報化社会へ対応していくために～

スマートフォンなど個別に所持できる機器の普及もあり、急速に子どもたちの生活の中で情報通信が密接なものとなりました。情報化社会に対応できる正しい知識や技能・判断力を身に付けることが、喫緊の課題になっています。

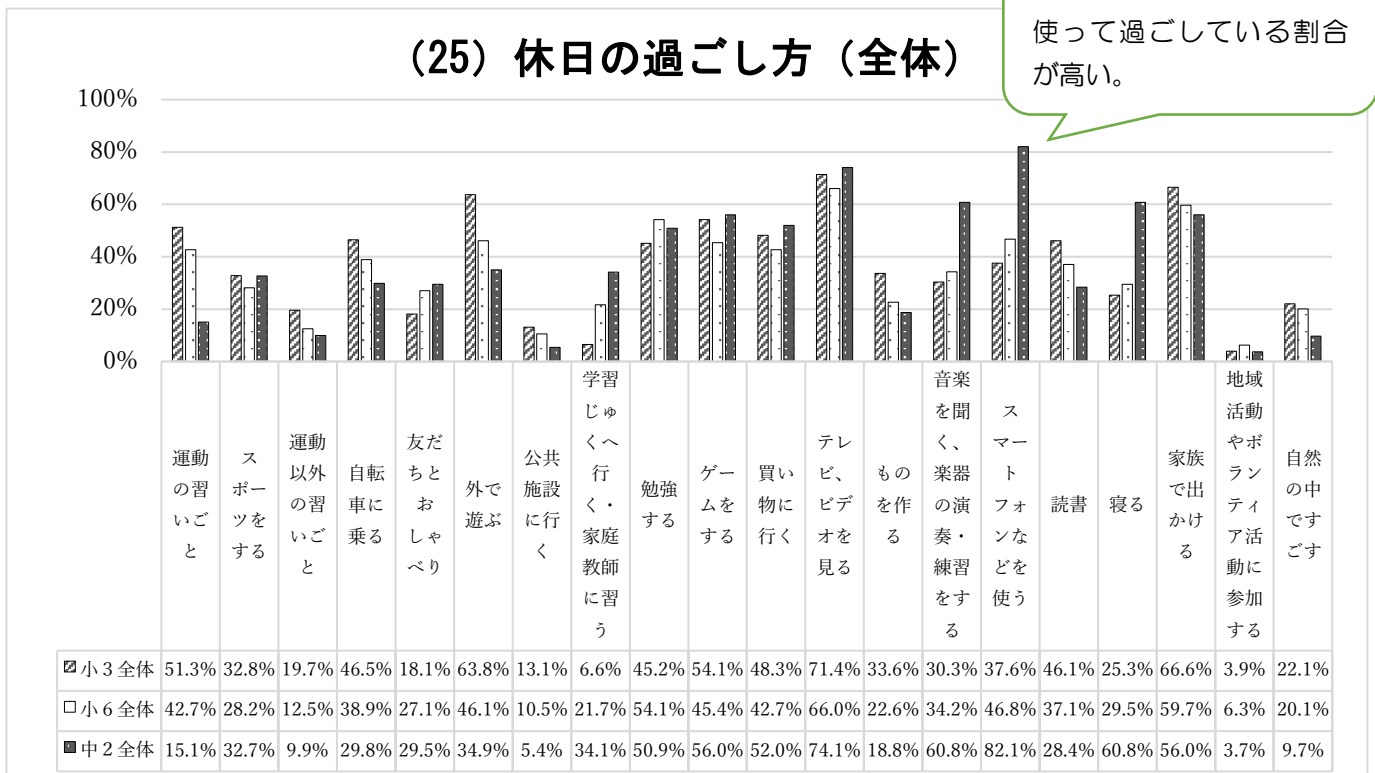
◇ 情報機器の所持と利用について



「持っている」と答えた割合は、学年が上がるほど増え、男子より女子が高く、全ての学年で増えている。男女ともに、小学生のうちに半数以上の児童が持っている。



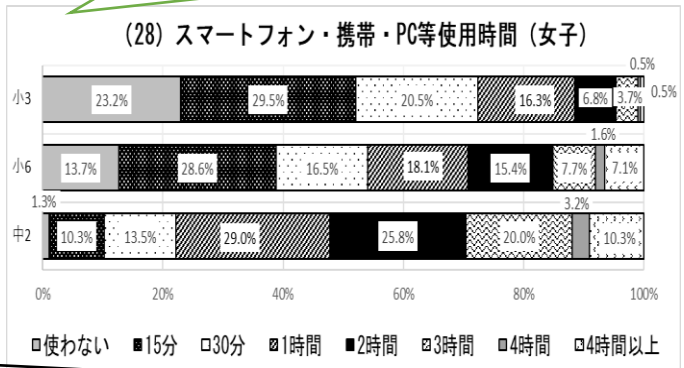
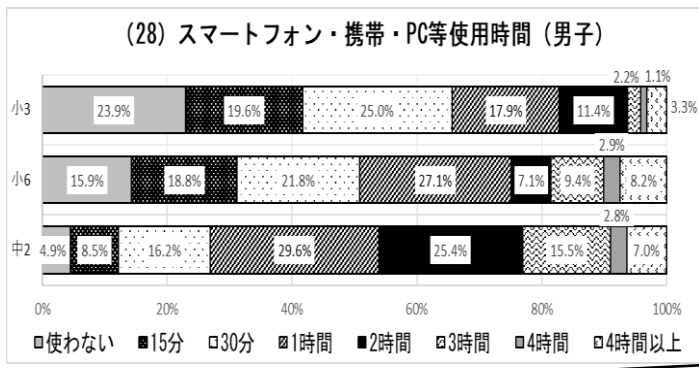
「自分専用」のコンピュータ (ipad などのタブレット型を含む) を持っている割合は、小学校3年生で25%を超える。小学校6年生以降は、家族と共有のものを含めると、8割を超えている。



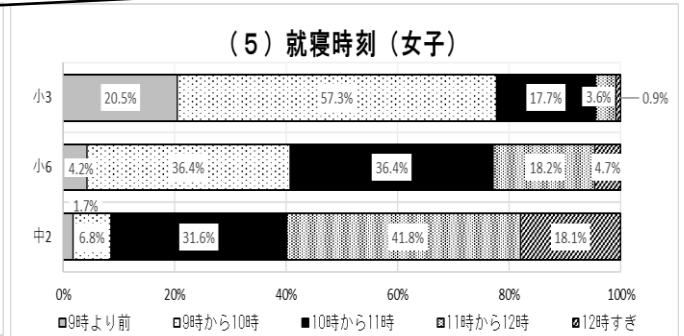
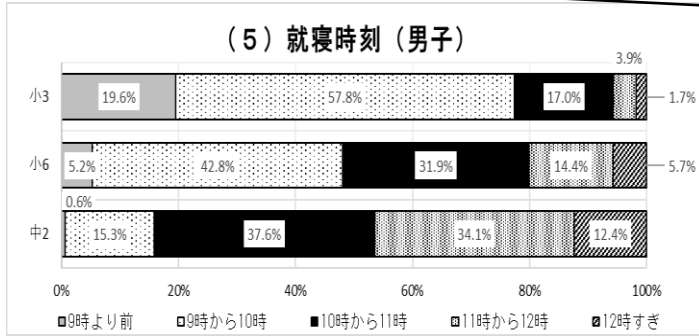
中学生は、休日にスマホを使って過ごしている割合が高い。

◇ 一日の使用時間と就寝時刻

年齢が上がるにつれて、使用時間が長くなる。

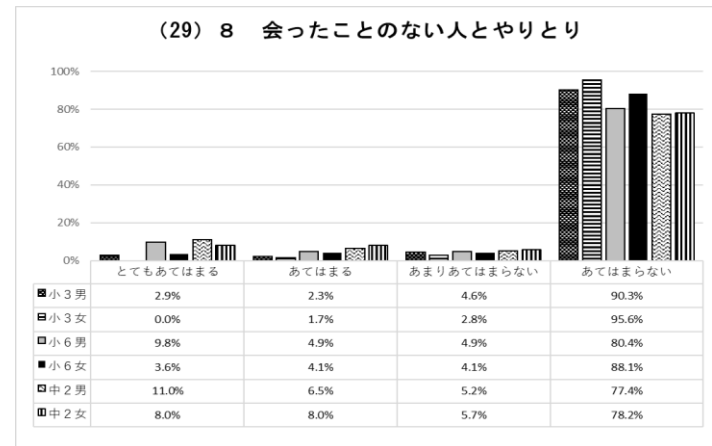
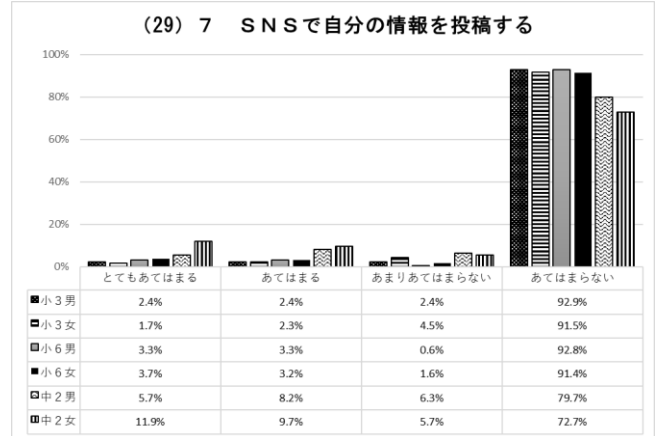
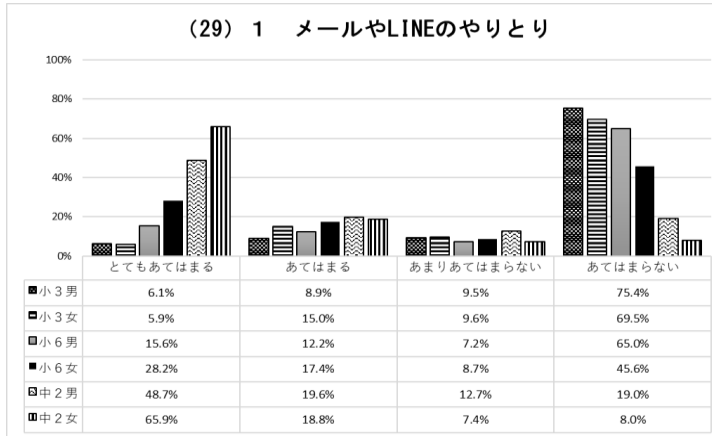


使用時間の多さと就寝時刻の遅さに、似た傾向がみられる



メールやLINEでのやりとりが身近なものとなっている。

◇ 情報のやりとり



「メールやLINEでのやりとり」は、中学生では7～8割近くが、「SNSで自分の情報を投稿すること」については、中学校2年生の女子の2割超があてはまると答えています。「会ったことのない人とやりとり」では、中学校2年生の男子17%強が、女子では16%があてはまると答えており、小学校3年生の男子は、ゲーム機での通信型対戦を含むのではないかと考えられます。

トラブルにつながることはないよう、ネットリテラシーについて、今後さらに学校や家庭での教育が必要です。